

## 教育ボランティアのススメ

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター長  
教育ボランティア委員会委員長

田 中 勝

あなたは今、「教師になりたい」と考えていますか？

山梨大学は教員養成学部を有する県内唯一の国立大学として教員養成のためのカリキュラムを整備し、教育学部に 90 名超の教員を配置して手厚い少人数教育を行っています。教員養成機能の強化のために平成 24 年度に「教職支援室」を開設し、教職経験豊富な客員教授の先生方による教員採用試験対策（志願書作成・論作文・面接等の指導・助言）、教育ボランティア活動の支援、個人面談を行っています。平成 25 年度には小学校の教室をそのまま再現した「模擬授業室」が誕生しました。教科書・指導書・DVD のほか電子黒板や iPad などの最新デジタル機器、色紙・模造紙・はさみ・のりなどが揃い、教育実習時の教材研究や授業づくりにいつでも利用できます。

このように教育学部では教師をめざす学生のみなさんの学びの環境を充実させようと、ハード面とソフト面を少しずつ整備してきました。でも、何か足りないと思いませんか？教育学部として重要な何かが欠けている、と私は思うのです。

それは「子ども」です。大学キャンパスにはみなさんのような大学生はいますが、子どもの姿を見ることはほとんどありません。大学だからそれが当たり前かもしれませんが、教育学部で学ぶときには子どもは必要な存在だと私は思っています。模擬授業室には児童 30 人分の机と椅子が用意されていますが、そこに子どもの姿はありません。だから教育実習前（中）に模擬授業を行うときは教育実習生が子ども役を務めることとなります。教育学部には教員養成に必要な環境が整えられているはずなのになぜか子どもがいないのです。

ではどうすればよいか？自分から子どもたちのいるところへ出かけていけばよいのです。みなさんが参加しようとしている教育ボランティアの意義はそこにあります。

教育ボランティア学生として県内の学校や地域に入っていけば子どもたちに出会えます。全国の国立教員養成系学部・大学の中で、大学と附属学校園が徒歩数分の距離にあるところはほかにはありません。この恵まれた環境も大いに活用してください。キャンパスの中だけで 4 年間の学びを完結させずに、積極的に教育現場に足を運んで実践的な教師力を磨いてほしいと願っています。先生方や子どもたちとの出会いやそこでの体験は、新しい自分の発見にもつながるはずです。

平成 29 年 4 月、教育学部附属教育実践総合センターは教員育成機能の高度化のために改組しました。教育ボランティアは引き続きセンター内の「教職支援部門（教職支援室）」が担当しています。平成 29 年度の教育ボランティアは活動申込人数 263 人（のべ人数）、実質活動者数 189 人、社会参加実習の単位取得者数 91 人でした。教育ボランティアは学生生活に浸透し、近年は 1～2 年生の参加も増えています。受入先としては今年度、甲斐市竜王北小学校と甲府保護観察所が加わりました。山梨大学と県内自治体との包括的連携協定の締結を受けて、来年度は韮崎市や富士河口湖町での教育ボランティアも始まります。このように教育ボランティアに対する内外のニーズは拡大し、学生のみなさんの活躍の舞台は拡がりを見せています。

教師になるために、自分自身を磨くために、授業のない空き時間を使って積極的に教育ボランティアに参加しませんか？受入先の学校や子どもたちはみなさんを笑顔であたたかく迎えてくれるはずです。教育ボランティアに参加し、教師という仕事を肌で感じながら、「やっぱり教師になりたい！」「絶対に教師になるぞ！」という学生が増えることを願っています。